

赤潮終息

松山から鮮度抜群の鮮魚を全国の皆様にお届けする嶋矢水産です。

今年の夏は全国的に、危険と思われる暑さに見舞われたと思います。そんな猛暑の中、豪雨被災を受けた地域の皆様も少しずつ回復している様です。改めて、お見舞い申し上げます。

今回の台風12号の逆進には、大変驚きました。今回の台風の影響だけに限れば、愛媛県内の被害は無く、むしろ、海上では風とうねりによって、適度に海水が交わり、海の状況が良くなったようです。

赤潮も沖へ流れ去り、養殖場も給餌を再開し魚体も回復した様です。

あとは今、高値で動いている浜値が少しずつ安値になって、買い易い状況になればと期待してでいます。



鯛の歴史と鯛の七つ道具

前月号でも紹介した7つ道具とは、鯛の体の中にある7種類の骨のことです。

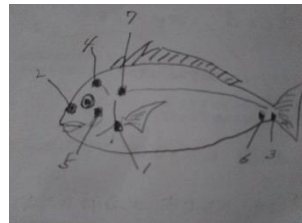
7つ道具と言えば、弁慶の7つ道具が有名ですが、これは弁慶が持っていたとされる7種類の武具のことを言うようです。

それに例えられて鯛の中にある骨の形の異なる特徴がある骨を指します。

真鯛の骨格に含まれる骨を1番から7番まで番号を与え、その1つ1つの形とそのいわれがあるようなのです。その7つの骨の名前の云われをご案内します。

皆様も良ければ真鯛1尾を煮付で食べながら探してみたいはいかがでしょう？

右の部位にあります。少し難しい作業と思いますが、一味違った味が楽しめると思います。



瀬戸内の根付の大あじ

瀬戸内の夏の旬の魚を代表する魚に、皆さんも知っている「アジ」があります。

最近アジの不漁が続き、ようやく少しずつ水揚げが始まりました。

嶋矢水産の契約している一本釣り漁師さんも、地元の真アジを漁獲しています。中でも、1尾600g以上の根付の大アジは入荷量が少なく、とても貴重な商材となっています。

冬場の水温が例年以上に下がったせいか、脂の乗りは大変良好です。外見は魚体が黄色く、鼻先が短いのが特徴です。

しかしながら、毎年、大アジも水揚げが減少しており、相場も高値で推移しています。

今年は入荷が例年になく、遅くなったのですが、是非、一度ご利用してみてください。



久しぶりに玉虫を見ました

自宅の庭に珍しく玉虫が飛来してきました。とても美しいと言われているヤマトタマムシです。もともと、玉虫は低山地に分布し、エノキやケヤキを好む習性があるそうです。

その玉虫の特徴である金属光沢は天敵の鳥を寄せ付けない効果があります。

また、玉虫は死んだ後も、その輝きは変わらない為、奈良時代をはじめとした古より装飾としても使われてきました。非常に貴重な昆虫だったようです。数十年前に末娘と裏山に、クワガタ虫を捕りに行った際に、よく見かけたのですが、今ではなかなか見ることも出来なくなりました。

今では、県によっては準絶滅危惧種に指定されているところもあります。非常に貴重な昆虫の品種になってしまいました。

